

長野県産業教育振興会 特別生徒研究助成 報告書

長野県飯田OIDE長姫高等学校

社会基盤工学科 秋元 航太郎

1 研究事業名



商業科と工業科が融合した探究学習

2 研究概要

本校では、商業科と工業科と一緒に学習する「地域活性プロジェクト」にて、最新のIoT（Internet of Things モノのインターネット）を活用することを前提にし、商業と工業の専門性を融合させ、地域の企業の方と協働しながら社会課題の発見や解決に取り組む。今年度は統合創立10周年にあたり、ここに焦点をあてた各種プロジェクトを展開するとし、同窓会及び企業連携のもと研究開発などを進め、社会に役立つ技術者や商業者を目指すことにした。

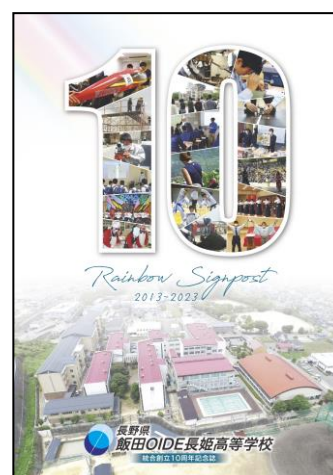
3 研究内容

(1) 年間の経過

学期	学習内容
1 学期	ガイダンス、チームビルディング 同窓会長による講義 プロジェクトごと企画、立案 ①ステージ運営 ②記念品制作 ③パンフレット制作 ④マスコットキャラクター制作 ⑤動画制作「10周年をふりかえる」 ⑥動画制作「部活動紹介」 ⑦広報、HP制作
2 学期	記念式典に向けた準備、制作活動 記念式典当日運営 ふりかえり プロジェクトごとの活動まとめ
3 学期	発表会 ふりかえり  

(2) 研究テーマ及び協力機関等

順番	班	研究テーマ	協力機関（敬称略）	担当生徒	担当
1	全体運営	プログラム制作、司会進行	飯田文化会館	B 米山 竜伍 C 鈴木 龍太 F 中島 温雅	西村先生
2	メディア	取材、編集、HP制作	信濃毎日新聞社	A 松久 詩音 B 小柴 卓真 D 三島龍之介 F 塩澤 春來	國松先生
3	動画制作 2	飯田OIDE長姫高校 部活動紹介	各部活動顧問、部員	A 古籾 然 B 松久下 倅大 C 松谷心 泰一 D 能谷敦 希哉 E 池田夢 花澤 F 片桐美 美湖 G 塚田亜 亜湖 山岸	柳瀬先生
4	パンフレット	統合創立10周年記念誌 ～Creative something memorable 自分たちの手で記念に 残るものを～	龍共印刷	A 井原 輝久 C 小川 玲邑 D 松田 陸 D 北原 朝希 E 吉川 晴哉 E 佐々木 幸香 E 塩澤 和都	堀内先生
5	全日制発表	マスコットキャラクター 科色	週休いつか	A 木下 優力 A 熊谷山 治大海 B 牛山 拓太郎 D 秋元航 海人 D 渡邊 斗人 E 白井 健斗 E 橋爪 佳男 F 清水 優月 G 山崎 遥香	星山先生
6	記念品	記念品製作	イイダアックス セイコーアドバンス	A 久保田 晃斗 A 岡吏 玖太 A 森脇 秀太 A 宮澤 巧真 B 小宮 健太 C 小林 佑之介 C 原 佐成 D 矢澤 優成 D 湯澤 佑基 E 加藤 暖心 E 伊藤 恋夕 F 田切 夕葵 G 木下 暖理	遠山先生 山内先生
7	動画制作 1	10周年のあゆみ ～動画作成を通じての苦勞～	教務系の先生方 (写真提供)	A 丸山 舜太 D 山島 慶汰 D 松村 佑 F 松阿 悠祐 G 本阿 莉子 G 代田 彩音 G 矢嶋 ありさ	白木先生



4 年間ふりかえりアンケート 調査集計一覧 (定量調査のみ掲載)

※自己評価 5が最高、1が最低の平均値 (カッコ内は昨年の値) n = 49

(1) 学習單元ごとの理解度、満足度

ア 導入編

チームビルディング	須山同窓会長講義
4.6 (4.5)	4.4 (—)

イ 10周年記念式典 プロジェクトごとの活動

1学期	2学期	まとめ・発表会	全体を通して
4.0	4.5	4.4	4.6

(2) まとめ (全体評価)

他学科と協働	外部連携	授業前の期待度	授業後の満足度
4.8 (4.7)	4.5 (4.7)	4.1 (3.9)	4.7 (4.6)

協働力は身についたか	探究力は身についたか
4.8(4.6)	4.6(4.7)

5 成果と課題

須山同窓会長からの講義の際、統合創立10周年記念式典で私たちが活躍できる機会をいただけることに、感謝するとともに、できるかどうか不安であった。また、学科が違う人たちが大勢いたので、なじめるかの不安もあった。

7つあったプロジェクトから自分たちがやりたいものを選んだことで、積極的に学ぶことができた。また、illustrator やPhotoshop、Premiere などA d o b e のソフトを活用した制作やHP制作に関わる言語、UVプリンタの利活用など、普段所属する学科では学べない多くのことを学ぶことができた。

10周年記念式典に関わるパンフレットや記念品などを制作したほか、生徒発表の1時間30分を無事成功させることができ、様々な方からお褒めの言葉をいただくことができた。

課題は、探究することが足りないことだ。もっと調査や研究に時間を割ければ、各種制作物の精度は上がったであろう。今後も商業と工業が融合した探究学習を進めてほしい。

